

第 15 回コーディネーター会合サマリー

2014 年 3 月 11 日（火）から 12 日（水）まで、内閣府及び原子力委員会の主催、文部科学省による共催の下、第 15 回 FNCA コーディネーター会合が、日本・東京において開催された。FNCA 日本コーディネーターである町末男氏が会合議長を務めた。

会合には FNCA 参加 12 カ国（オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム）及び RCA 地域オフィスより、FNCA コーディネーター、プロジェクトリーダー、RCA 地域オフィス所長、上級行政官等が出席した。

会合における 9 つのセッションの概要は以下の通りである。

セッション 1：開会セッション

近藤駿介原子力委員会委員長が開会挨拶を行った。参加者による自己紹介の後、会合のプログラム案が修正なしで採択された。

セッション 2：2013 年度の FNCA 会合報告

町コーディネーターが、第 5 回「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」と、第 14 回大臣級会合の結果について報告を行い、本会合において議論すべき大臣級会合の議長声明及び主要な決議事項について強調した。

セッション 3：放射線利用開発

辻井博彦プロジェクトリーダーが、放射線治療プロジェクトの活動と共同臨床試験の顕著な成果等について報告を行った。続いてベトナムのダン・フイ・クオック・ティン氏が、ベトナムでの FNCA プロトコルを用いた治療による優れた成果について、報告を行った。

中井弘和プロジェクトリーダーが、放射線育種プロジェクトの過去の成果について報告し、新しいテーマである「持続可能な農業のためのイネの突然変異育種」の重要性について強調した。また、フィリピンのオリビア・P・ダマスコ氏が、放射線育種技術によりバナナバンチートップウイルスに対して抵抗性を有するラカタン品種（バナナ）を開発する取組と、この新品種の優れた性質について、報告を行った。

議論の結果、放射線育種、バイオ肥料、電子加速器利用（天然高分子の放射線加工）の 3 つのプロジェクトの間で、オリゴキトサンの利用等について、協力を進める必要があることが示された。

横山正プロジェクトリーダーが、バイオ肥料とオリゴキトサンの相乗効果等、バイオ肥料プロジェクトの進捗状況について説明を行った。続いてマレーシアのカイルディン・ビン・アブドゥル・ラヒム氏が、キャリアの放射線滅菌を用いて製造したバイオ肥料を商業化するマレーシアの経験について説明を行った。

玉田正男プロジェクトリーダーが、電子加速器利用プロジェクトにおける、植物生長促進剤と超吸水材の開発及び商業化の現状について、報告を行った。続いてインドネシアのダルマワン・ダルウィス氏が、研究開発・(特にトウガラシに対する)フィールド試験・普及活動等、インドネシアにおける照射キトサンを用いた植物生長促進剤商業化の取組について紹介した。

セッション 4 : 研究炉利用開発

海老原充プロジェクトリーダーが、地球化学的試料・食品試料・海洋堆積試料を対象とした中性子放射化分析プロジェクトの成果について報告を行った。

小森芳廣プロジェクトリーダーが、放射性医薬品に用いられる Mo-99 を参加国において安定的に供給するための戦略等、研究炉ネットワークプロジェクトの過去 3 年の活動について総括した。

セッション 5 : 原子力安全強化・原子力基盤強化

オーストラリアのピーター・マックグリン氏が、ピアレビューを通して見出された良好事例や改善推奨事項の普及等、原子力安全マネジメントシステムプロジェクトの全体的な成果について紹介した。

松添雄二氏が、ワークショップ・放射線安全に関する統合化報告書の更新・ニュースレターの発行等、放射線安全・廃棄物管理プロジェクトの成果について発表した。

千崎雅生プロジェクトリーダーが、核セキュリティ・保障措置プロジェクトのワークショップの結果について述べ、さらに 2014 年 11 月に IAEA と共催で核セキュリティに関する地域訓練コースを主催する意向を表明した。

山下清信プロジェクトリーダーが、各国の原子力人材育成関連機関のネットワーク化、人材育成に関する国際協力の連絡担当者一本化等、人材養成プロジェクトの成果について紹介した。

セッション 6 : IAEA/RCA の活動と FNCA との協力

チョ・クンモ RCA 地域オフィス所長が、RCA の活動と FNCA との協力について説明を行った。3 つの分野 (放射線加工・放射線治療・放射線育種) における FNCA と RCA との協力は有効に機能しており、今後も継続するべきであることが確認された。町コーディネーターは FNCA と RCA の間で現在行われている協力について、見解を述べた。

セッション7：第14回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議

(1)「核セキュリティ文化の醸成」について

近藤委員長がリードスピーチにおいて、核セキュリティ文化強化のための要点を示し、日本における取組について紹介した。韓国のチョン・ホンファ氏が、韓国における核セキュリティ文化の枠組みと、核セキュリティに対する認識・態度の評価や教育訓練等、韓国核不拡散核物質管理院（KINAC）による取組について発表した。千崎氏が、核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）による核セキュリティに関する訓練コースと、良好事例共有のためFNCAウェブサイトを活用する取組について、紹介を行った。組織の幹部が核セキュリティに関与することの重要性が指摘され、FNCAの枠組みにおける核セキュリティ文化に焦点を当てた大臣級会合の開催が提案された。

(2)「放射線利用開発の実用化促進のためのエンドユーザーとのネットワーク構築」について

町コーディネーターがリードスピーチにおいて、FNCAの5つのプロジェクト（電子加速器利用、バイオ肥料、中性子放射化分析、放射線治療、放射線育種）における潜在的なエンドユーザーを示し、技術移転促進のための戦略策定と、FNCAプロジェクトによって開発された技術・製品に関するエンドユーザーへの情報普及の必要性について強調した。

(3)「人材養成における各国間の協力の在り方」について

町コーディネーターがリードスピーチにおいて人材養成プロジェクトの課題について指摘し、ワークショップにおいて上級行政官レベルの情報交換を進めるべく、国家の人材育成戦略の策定に責任を有する上級行政官をワークショップに派遣するよう参加国に働きかけた。ベトナムのカオ・ディン・タン氏が、ベトナムにおける原子力発電所建設に向けて、2020年までに必要とされる人材の見通しと、関連機関の役割について示した。文部科学省の坂本修一氏が、原子力研究者育成事業（NREP）、講師育成研修（ITP）、また核セキュリティ分野における能力構築等、文部科学省による原子力人材育成のための国際協力について述べた。

セッション8：FNCAの今後の活動について

町コーディネーターがFNCAの10プロジェクトについて総括し、2014年度に実施されるべき活動計画を提示した。またFNCAコーディネーターが町コーディネーターの提案に対する意見を述べた。続いてFNCAの今後の活動に関する議論が行われた。

セッション9：閉会セッション

町コーディネーターが「結論と提言」の案を提示し、議論と変更の後、参加者からの合意を得た。最後に町コーディネーターが閉会挨拶を述べ、会合は閉会した。